平成20年度 富里歴史講座

於：富里市立図書館

第2回「成田空港建設問題」

２００８・８・１０

～ 農地を守った人々 ～

林 田 利 之

１．村民に激震走る！！

昭和３８（1963）年９月１３日。新聞各紙に掲載された一つの記事が、それまで農業一筋に生きてきた多くの富里村民をショックのどん底におとしいれました。

この前日である１２日、友納武人千葉県知事（図１）が県議会全員協議会において、新空港設置場所を「運輸省は北総台地を候補地として検討したい意向」と発表していましたが、この候補地こそが「富里・八街地域」であると、新聞各紙によって報道されたのです。まさに「晴天の霹靂」という事態でした。

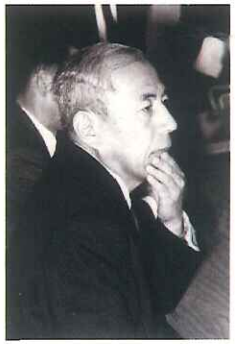

図１　友納武人千葉県知事

昭和３７（1962）年１１月に池田勇人（図２）内閣の決議で第二国際空港建設が閣議決定され、新空港がいずれ建設されるのは周知の事実でしたが、去る７月４日の綾部健太郎運輸大臣（図３）、河野一郎建設大臣（図４）、川島正次郎国務大臣（図５）、友納知事の第一回四者会談によって「新空港は東京湾の千葉県側に設置。その候補地として浦安沖案と木更津沖案がある」と発表されていたため、村民にとっては朝刊の紙面に踊る「候補地は富里・八街付近」という知事発言は寝耳に水の出来事でした。

図２　池田勇人総理大臣

この知事発言により、先の７月３０日に行われた新空港関係各省発打合会合において、従来の木更津・浦安案に加えて富里案と霞ヶ浦案が始めて候補にあがり、これを受けて運輸省が８月２０日、新空港の候補地および規模について航空審議会に諮問し、公式の場に「富里」の名が登場したのでした。

図３　綾部健太郎運輸大臣

図４　河野一郎建設大臣

図５　川島正次郎国務大臣

しかしすでに運輸省航空局は「羽田空港を残す以上、浦安・木更津ともに内湾への造成は航空管制上無理がある。東京周辺の内陸部への建設案も検討したい」と、内陸構想を打ち出していました。

しかも茨城県側では新空港誘致にあまり積極的ではなかったこともあって、富里空港が大きくクローズアップされていたのです。

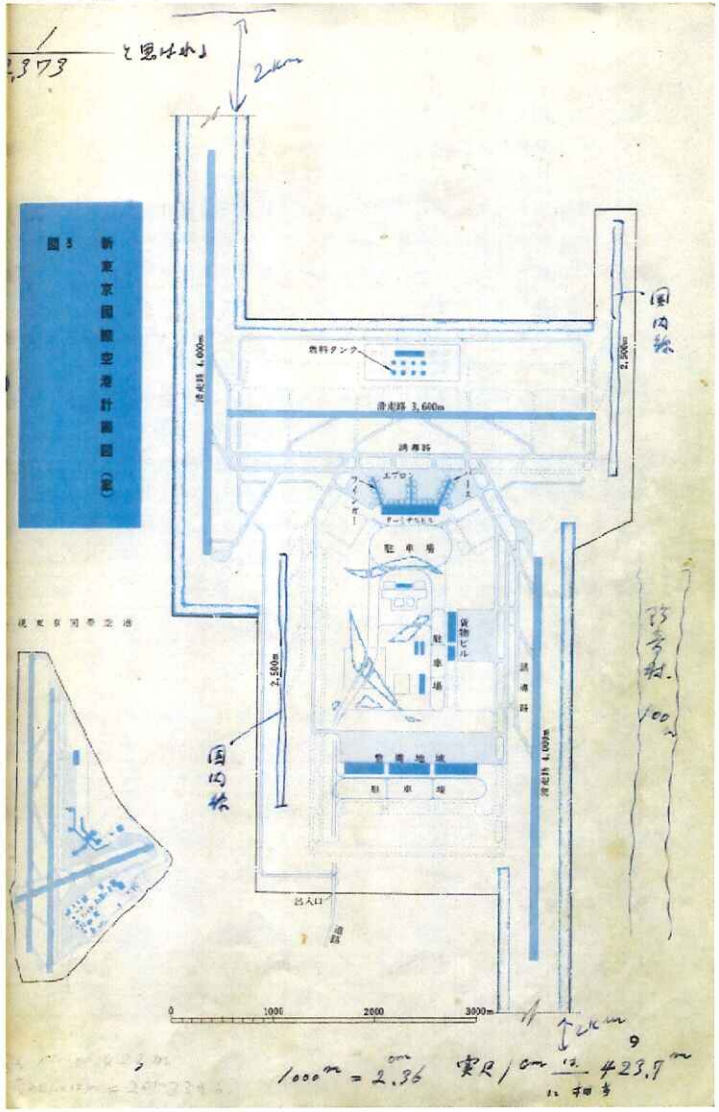

図６　新東京国際空港計画図（案）